

機 関 番 号				

研究機関名 _____

競争的資金に係る間接経費執行実績報告書 (平成25年度)

1. 間接経費の経理に関する報告

(単位: 円)

(収入)		
競争的資金の種類	間接経費の納入額	備考
科学研究費補助金	〇〇, 〇〇〇	
学術研究助成基金助成金	〇, 〇〇〇	
〇〇制度	〇, 〇〇〇	
合 計	〇〇, 〇〇〇	
(支出)		
経費の項目	執行額	備考 (具体的な使用内容)
1. 管理部門に係る経費		
①人件費	〇〇, 〇〇〇	
②物件費	〇, 〇〇〇	
③施設整備関連経費	〇, 〇〇〇	
④その他	〇, 〇〇〇	
2. 研究部門に係る経費		
①人件費	〇, 〇〇〇	
②物件費	〇〇, 〇〇〇	
③施設整備関連経費	〇〇, 〇〇〇	
④その他	〇〇, 〇〇〇	
3. その他の関連する事業部門に係る経費		
①人件費	〇〇, 〇〇〇	
②物件費	〇, 〇〇〇	
③施設整備関連経費	〇〇, 〇〇〇	
④その他	〇〇, 〇〇〇	
合 計	〇〇, 〇〇〇	

2. 間接経費の使用結果に関する報告

被配分機関において、間接経費をどのように使用し、その結果如何に役立ったのか報告 (間接経費の充当の考え方、使途、効果等)。必要に応じて参考資料を添付。
 間接経費を次年度以降に使用する場合は、未執行額と予定を記載。

様式 B-7、E-7、Y-7、BK-7（共通） **【作成上の注意】**

本様式は研究代表者又は研究分担者から、科学研究費助成事業（科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金）の間接経費を譲渡されている場合に、他の競争的資金制度から受け入れた間接経費を含め研究機関として1部作成し、翌年度の6月30日までに日本学術振興会あてに提出すること。

【注意事項】

- ① 競争的資金制度については、内閣府ホームページ（<http://www8.cao.go.jp/cstp/budget/index2.html>）に掲載されている競争的資金制度の制度名を記入し、その競争的資金制度による間接経費を受け入れた額について記入すること。
- ② 科学研究費助成事業において、他の研究機関に所属している研究分担者に配分した間接経費については計上しないこと。逆に、他の研究機関に所属している研究代表者より配分された間接経費については計上すること。
- ③ **【補助金】**間接経費は、繰越承認を得ている場合のみ次年度に使用することが可能。各欄の記載方法は、下表を参照。
- ④ **【基金分】**間接経費を次年度以降に使用する場合は、「間接経費執行実績報告書」の「間接経費の使用結果に関する報告」欄に未使用額と予定を記載すること。また、前年度以前の未使用額を使用した場合も、同欄にその未使用額を記載すること。
 (例) 収支差額のうち〇,〇〇〇円は、科研費の間接経費であり次年度に計画的に使用予定である。
 収支差額のうち〇,〇〇〇円は、科研費の間接経費であり前年度の未使用額分である。
- ⑤ 間接経費より生じた利息分を間接経費として使用した場合は利息分を含めて支出額として計上すること。その際、使用した利息の額がわかるように、利息を使用した経費の項目の下に「(うち利子使用額〇〇円)」と記入すること。
- ⑥ 研究機関独自の資金等と合算して間接経費を使用した場合については、間接経費分だけを計上すること。
- ⑦ 本様式は、独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成第一課あてに提出すること。なお、提出に当たっては、特に公文書を添える必要はない。

<報告書での記載方法>

	基本的な考え方	各欄の記載方法
基金分	手続きなく、次年度以降使用可。	「1. 間接経費に関する報告」欄
		収入：(本年度)本年度使用額＋本年度未使用額 (翌年度)翌年度使用額＋翌年度未使用額 支出：(本年度)本年度使用額 (翌年度)本年度未使用額＋翌年度使用額
		「2. 間接経費の使用結果に関する報告」欄
		(本年度)未使用額と予定を記載 (翌年度)本年度の未使用額を記載
補助金分	<繰越承認なし> 次年度使用不可	「1. 間接経費に関する報告」欄
		収入：(本年度)本年度使用額＋本年度未使用額 (翌年度)翌年度使用額＋翌年度未使用額 【翌年度の使用自体が不可】 支出：(本年度)本年度使用額 (翌年度)翌年度使用額
		「2. 間接経費の使用結果に関する報告」欄 (不要)
	<繰越承認あり> 次年度に使用可	「1. 間接経費に関する報告」欄
		収入：(本年度)本年度使用額 (翌年度)本年度未使用額＋翌年度使用額 支出：(本年度)本年度使用額 (翌年度)本年度未使用額＋翌年度使用額
		「2. 間接経費の使用結果に関する報告」欄 (不要)